

令和8年度 調布市立神代中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標

一、自ら学び、考える人 一、礼節を重んじ、思いやりのある人 一、心身ともに健康な人

目指す学校像(ビジョン) 例)学校像、教員像、児童・生徒像

「だれもが自分のことも、他の人のことも大切に作る学校」「不易流行で進化する学校」

ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	本校は都内有数の大規模校であり、市内で最も歴史のある中学校である。大規模校であるがゆえに、個が埋没してしまうことがないよう、一人一人が尊重され、誰にとっても安全で安心な学校生活の実現が求められる。また、歴史のある学校だからこそ、伝統を継承してだけでなく、伝統を重んじながらも状況に適応し、変化することで更なる進化を遂げることが重要である。教育活動を多面的・多角的に捉え、不易流行の精神をもって、「より良い変化」に果敢にチャレンジしていくことが求められる。
-------------------------	---

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	国の学力調査では、全ての項目で都及び国の数値を上回っているがその中で書くことの問題にやや課題が残るため、語彙を身に付け、自分の考えを表現する力、相手の意図を理解し自分の考えや立場を表現する力を養う。	話し合い活動の記録、スピーチ原稿など、文章を書く機会を意図的・段階的に設定する。相互評価をすることで、お互い学び合う機会を設ける。様々な問題を取り上げ、それに対する自分の考えをもたせる。課題に対して、根拠を基に自分の考えを表現できるようにする。
社会	主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を通し、社会的な見方・考え方を育てる。	毎授業において学習のねらいを明確にし、振り返りの機会を設ける。「社会的な見方・考え方」を働かせて、課題解決を図る場面を設定する。深い学びのために、協同的に学び合うことやアウトプットする活動を行い、基礎学力の向上をはかる。
数学	国の学力調査では、思考・判断・表現に関する問題の正答率が他の項目に比べて低いことを踏まえて、きまりを見付け、見出したきまりを、既習内容を生かして説明できる力を養う。	単元ごとに、説明する問題を設定し、既習事項を生かして相手に説明するなど、言語活動の機会を設け、ペア学習・グループ学習における発表を通して表現活動を充実させる。単元の振り返りで、既習事項の整理をし、次の単元とのつながりを意識させる。
理科	自然事物・現象に対する興味・関心を高め、基礎的な学力の定着を目指す。また、実験・観察を行い、その結果を分析し解釈し表現できる力を身に付ける。	視聴覚教材を取り入れながら日常生活と学習事項との関わりを示し、自然事物・現象に対する興味・関心を高める。観察・実験の機会を増やし、結果に対する考察を個人で考えて各班で共有してまとめさせ、発表させることで思考力・判断力・表現力等を育む。
音楽	音楽の特徴を捉え、合唱や鑑賞等で主体的に表現につなげる力を養う。特に歌唱活動においてより良い演奏をつくり上げるよう、これまで学んだことを生かす力を身に付ける。	鑑賞のみならず、歌唱・創作・器楽等の中から知識を深めさせ、基本となる音楽的諸要素と表現活動のつながりに「気付く力」を育成する。そこで学んだことを歌唱・器楽に生かし、更に音楽への興味を深めさせる。
美術	主題や表現意図を明確にし、自分の表現に対する考えを説明したりできるようにする。自他の作品のよさを感じ取り、説明したりできるようにする。	表現の説明を整理して言語で説明する機会を単元ごとに設ける。また、鑑賞活動の充実を図り、いろいろな作品のよさに触れさせる機会を設ける。表現活動と鑑賞活動の連続による、より深い活動ができるようにする。
保健体育	自身の健康や体力に関心を持ち、主体的に課題を解決しようとする力を身に付けさせる。また、集団で行う運動を通して、規範意識と協調性を身に付けさせる。	健康・安全を第一に考え、準備運動・補強運動に取り組む環境をつくる。また、仲間に対して技術的な課題や有効な練習方法の選び方について教え合う環境をつくる。新体力テストを基に自身の健康への関心を高める。
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度や、生活や社会の中から問題を見出し、課題を解決していく力を養う。	生徒自身に社会や生活の中にある技術に関心をもたせ、製作、制作、育成、実習、観察・実験、見学、調査・研究などの実践的・体験的な活動を通して、習得した知識・技能が生活の自立につながることに気付かせる学習活動を実践する。
外国語(英語)	英語を通して異文化に触れ、物事を多面的・多角的に捉える能力を育成する。また4技能5領域を授業の中で育成していく。	年間を通し、4技能5領域をバランスよく育成するために、目的場面状況を伴った言語活動を取り入れ、考えや意見を相手に伝える機会を設定する。また、自分の気持ちや考えを効果的に相手に伝える方法を考えることで、思考力・判断力・表現力を育む。
道徳科	調布市の重点項目である「生命尊重」の態度を身に付けさせるとともに、本校の教育目標にある「礼節を重んじ、思いやりのある人」を育成する。	主体的に深く考え議論する道徳を目指し、個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実を実現する。4月の防災教育の日・12月のいのちの教育月間に「生命の尊さ」、6・11・12月のふれあい月間に「思いやり」「友情」「相互理解・寛容」、について道徳担当教員を中心にICTを活用した指導の充実を図る。